キャラクター名: 青天目　白人

プレイヤー名:

シンドローム	バロール バロール	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	死	衝動	恐怖	初期侵食率	40 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	2	0	0			2
精神	4	1	2			7
社会	2	0	0			2

HP	29
行動値	11
(非装備時)	11
戦闘移動	16
全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	3		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術： 文学			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ		2	情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	ＲＣ	9r+3	7	4		範囲選択。9dx7+2
	ＲＣ	9r+3	7	4		単体。9dx7+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
情報収集チーム	
コネ:専門家・レネゲイド	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
転生者	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ:バロール	2	2						
効果：	C値-LV							
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	ピュア	
効果：	同エンゲージ攻撃可。判定ダイスを+LV+1個する							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	自動成功以外の判定を失敗させる。1S1回							
因果歪曲	3	3	メジャー	-	範囲選択	-	1S LV回	
効果：	範囲選択に変更。同エンゲージ不可。シナリオ中LV回							
黒の鉄槌	2	1	メジャー	視界	-	-	-	
効果：	攻撃力+LV×2+2の攻撃。同エンゲージ不可。							
オリジン：ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：	シーンのエフェクトを使用した判定の達成値に+LV							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：	衝動判定にダイス+LV個。基本侵蝕値+5							
振動球	7	3+4	メジャー	視界	ー	対決	100↑	
効果：	攻撃力+LVの射撃攻撃。装甲無視。							
ディメンションゲート	1	3					茶番時	
効果：	どこでもドア							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

青天目　白人(なばため　あきと)
年齢:26歳
性別:男
能力:バロール
一人称:僕

<プロフィール>
紅林、能見の同期であり、現在はUGNの装備開発を行う研究機関に所属している。
中性的な美貌の持ち主であり、とてつもない自信家。常にハイテンションで詩的な表現を多用する。自由奔放な性格をしており、趣味の芸術に傾倒することもあるため、他の研究者達の悩みの種となっている。しかし、確かな技術と合理的な考えを見せるキレ者としても認識されており、それが更に上司や助手の胃を痛める原因にもなっている。
紅林と能見を最愛の親友と公言しており、ゲートを使って支部を訪れては、二人が頭を抱える事態を起こすこともしばしば。
二人との誓いのために、よりエージェントの生存率を上げるための装備の開発・研究をしており、現在は主にEXレネゲイドについて研究している。
趣味の芸術や開発のこともあり、モルフェウスの能力が欲しかったと、よく愚痴を零しており、新たな能力を得る研究も個人的に行なっている。そのためモルフェウスの能力を持つ人間には尋常ではないほどに興味を示している。
今は前線を離れたが、二人の危機には絶対に駆けつけることを約束している。

【来歴】
<生い立ち～幼少期>
・青天目　白人はとある財閥の会長を祖父に持ち、社長の父とその秘書で愛人の母の間に生まれた。父には、正妻とその間に生まれた白人の7つ上の腹違いの姉にあたる娘がいたが、男児には恵まれなかった。
古風な家柄であり、祖父は男児の白人を引き取ろうとするが、母は父が正妻と離縁して自分と再婚することを迫る。父は祖父の敷いたレールを歩んできただけの